

令和5年度 尾道市立因北中学校経営計画

尾道市立因北中学校
校長 向井 昌行

I はじめに

新型コロナウイルス感染症への対応が4年目となり、今年度は様々な行事が再開されることが予想されるが、以前として見通しが付きにくい状況には変わりはない。このような状況の中で、学校教育には、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、新たな価値を創造することが求められる。

本校を卒業する生徒たちが、予想のできない社会をたくましく生き抜くための基盤づくりを進めることが求められている。

生徒が「因北中で学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域の方々が「地域の宝である」と思える学校を、教職員一同、力を合わせて創り上げていくことが肝要である。

働き方改革を進め、子供と向き合える時間の確保に努めるとともにやりがいを感じる職場づくりを推進していく必要がある。

II 学校教育目標

「心豊かで自ら求めて学び 生き生きと活動する生徒の育成」

III めざす姿

(1) めざす学校像

- 生徒が「因北中で学んだよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域の方々が「地域の宝である」と思える学校

(2) めざす生徒像

- 自他を尊重する生徒
- 主体的・自律的に行動する生徒
- 自分の考えや思いを豊かに表現する生徒
- 地域に誇りを持ち、社会に貢献できる生徒

(3) めざす教職員像

- 確かな授業力を持った教職員
- 豊かなコミュニケーション能力、確かな生徒指導力を持った教職員
- 新たなものに挑戦する意欲を持った教職員
- 連携・協働し、組織的に職務を遂行する教職員
- 教育公務員としての自覚をもち、不祥事防止に努める教職員

IV 本校で育成したい資質・能力

- 主体性 表現力 コミュニケーション能力

V 今年度の取組目標と方策

スクールミッション

「組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成」

1 授業改善による確かな学力の定着

(1) 表現力を高める授業づくりを通して、深い学びを創造する。

○ 授業づくりのポイント

① 課題設定の充実。

- ・興味・関心がわく課題，必然性のある課題，既習概念とのずれがある課題など。

② 話し合い活動の充実

- ・生活班（4人）での活動。役割分担の徹底（司会，記録，発表等）
- ・話し合いの前に自分の考えや意見をしっかりもたせる。（個人思考）
- ・相手の意見をしっかり聞き，相手の意見を踏まえて，分かりやすく自分の意見を述べさせる。（結論選考，理由付け等）
- ・話し合いで出た意見に対して，「問い返し」等を行い，互いの考えを深める。
- ・相手と自分の考えの違いに気づき，多面的・多角的な見方・考え方をもたせる。
※教員は，各班の話し合いの状況を把握し，適切な働きかけを行う。放任しない。

③ 振り返りの充実

- ・毎時間または，単元（題材）の終末で，振り返りを書かせ，授業や単元（題材）で学習内容について分かったこと，自分の考えで深まったことや意見交流から気づいたこと等を文章で整理させる。
「何がわかったか」「学習の方法でうまくいったこと，いかなかったこと」
「もっと考えてみたいこと，調べてみたいこと」などを振り返りで書かせる。
→主体性の評価に入れる。

④ 授業の基盤づくり（学習規律の徹底）

- ・忘れ物をさせない指導。
- ・始まりと終わりの挨拶の徹底。（全員が声をだす。礼をする）
「お願いします」→「礼」
- ・生活班での活動。好きな者同士での自習は×。生活班での集団づくりを進める。
- ・話し合いの時の，机のくっつけ方を統一する。
- ・クロムブックを勝手に開けない。（教師の指示があって開ける）
- ・ICTの活用。（目的を明確にした活用。使用することが目的とならないように。）

⑤ 家庭学習の定着

- ・1年生＝70分，2年生＝80分，3年生＝90分以上
教員，生徒がこの目安を意識する。生活の記録に記入させるなど生徒，教員が状況を把握し，継続的な指導を進める。

(2) 小中連携を図り，相互の授業改善を進める。

- ① 研究会，研究授業の際に相互の授業を参観し，研究協議する。
- ② 育成を目指す資質・能力＝「表現力」について，中学校のゴールイメージを共有し，小中が系統的に育成に取り組む。
- ③ 小学校の内容を意識して，中学校の授業づくりを進めていく。
→学習指導案に小学校との内容との関連を記入する。

(3) つまずいている生徒への支援，基礎学力の定着を図る。

- ① 学力下位層の指導，支援を行う。
- ② 理解を支援するためにICT，視聴覚教材の活用。
- ③ ユニバーサルデザインの活用。
- ④ 家庭と連携して家庭学習の充実を図る。
- ⑤ 提出物を出し切らせる指導。

2 豊かな心の育成，積極的な生徒指導の推進

(1) 不登校生徒への取組

- ① 不登校生徒の「居場所づくり」，温かい「学級集団づくり」をすすめる。
- ② S S R の効果的な運営を進めるとともに，S C ，はっさく教室との連携を図り，個に応じた指導をすすめる。
- ③ 欠席生徒への確実な早期対応。

(2) 生徒会活動を活性化させ，ボランティア活動や地域貢献活動をしくむ。

- ① 生徒会活動の活性化。自治的能力の育成。異学年交流の充実。
- ① 自己有用感を感じる行事・体験活動の創造。主体性を伸ばす指導の充実。
- ② 小中高の連携を充実させる。

(3) 生徒が安心して生活できる学校づくりをすすめる。

- ① 生徒指導主事を中心とした組織的な指導体制
- ② 経験の浅い教職員が増えている。生徒指導や教育相談に係る校内研修の充実。
- ③ アセスの有効活用
- ④ 特別な支援を要する生徒への対応。尾道特別支援学校，関係機関との連携。

(4) 生活規律の徹底

- ① 「因北ナビゲーション」による共通した指導
- ② 生徒指導部会を定例開催し，生徒に状況の交流，指導の徹底を図る。
- ③ 「元気のよい挨拶（聞こえる挨拶）」「時間を守る」「環境を整える」の徹底

(5) カリキュラムマネジメントの推進

- ① S D G s（持続可能な開発のための教育）を中心とした総合的な学習の時間の体系的な活動
- ② 『15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力』を育むためのキャリア教育の充実。表現力に育成に向けて，授業，進路学習，学校行事などの関連を図る。

3 たくましく生きるための健康づくり・体力づくり

(1) 達成感や充実感を感じられる部活動

- ① 大会入賞の目標
- ② 生涯体育につながる指導

(2) 基本的な生活習慣の確立，健康づくり・体力づくり

- ① 新体力テストの学校得点で全国平均を上回る取組の実施（体育科を中心）
- ② 生活習慣を整えるため，ゲームをする時間やスマホを使う時間の調整
- ③ 感染症予防対策など健康教育の充実

4 信頼される学校づくり

(1) 組織的で機動力のある学校運営体制の確立

- ① 主任・主事に，任せる。主任・主事の役割を明確にする。
- ② 主任・主事・（経験の豊富な教職員）⇒若手教職員への指導・スキルの伝達
- ③ 「ボトムアップ」の推進

(2) 不祥事防止

- ① マニュアルの遵守。ミスがないか点検を必ず行う。
- ② 主体的な服務研修の実施
- ③ 成績管理・・・複数確認，締切厳守，データ処理システムの徹底
- ④ 公金の取扱・・・収支手続きの確実な実行
- ⑤ 個人情報管理・・・管理マニュアルの徹底，整理整頓

(3) 危機管理・安全管理の徹底

- ① 危機管理・安全管理マニュアルの徹底

(4) 働き方改革の推進

- ① 定時退校日の徹底
- ② 勤務時間外の在校時間の縮減・・・業務の分担，教職員の意識改革

(5) 校務運営システムの推進

- ① 運営マニュアルの徹底，情報の共有
- ② 校内研修の充実（評価・評定の研修を含む）